

河北潟干拓地の排水路で確認されたエサキアメンボ

高橋 久

河北潟湖沼研究所生物委員会

〒920-0051 金沢市二口町ハ58

要約:2000年以降河北潟で確認されていなかった石川県絶滅危惧類のエサキアメンボ *Limnoporus esakii* が,2007年に河北潟干拓地の排水路から確認された。エサキアメンボはヨシの繁茂する1箇所の水路の約300mにわたって生息していた。

キーワード:エサキアメンボ,河北潟,レッドリスト,絶滅危惧種,石川県

はじめに

エサキアメンボ *Limnoporus esakii* (Miyamoto, 1958)は,石川県レッドデータブック(石川県野生物保護対策調査会,2000)において絶滅危惧

類に分類される昆虫で,河北潟に面した津幡町川尻の水路において2000年頃まで生息が確認されていた(西原・高橋,2000)。しかし2001年にこの水路のエサキアメンボの生息範囲の全てを含む範囲が埋め立てられ,エサキアメンボが確認されなくなった。その後,河北潟および周辺においてエサキアメンボの確認記録は得られていない。

この度,河北潟干拓地の排水路において,エサキアメンボの生息を確認したことから,生息地の概要および生息状況について報告する。なお,確認に至る調査は,河北潟干拓地における「平成19年度 農地・水・農村環境保全向上活動」の一環として実施されたものであり,現地調査は永坂正夫氏,川原奈苗氏および筆者の3名で実施した。

生息状況

調査は2007年8月24日に実施した。

エサキアメンボの生息が確認された地点は,石川県河北郡内灘町湖西の河北潟干拓地内の排水路である。河北潟干拓地には,圃場2筆分を挟むように規則正しく支線排水路が配置されているが,エサキアメンボの生息が確認されたのは,このうちのひとつの排水路のみであった。

生息が確認された水路の概況を図1に示した。もともとはコンクリートで護岸された三面水路であるが,土砂が堆積するとともに,一部で水が溢れ水路の周囲が水没しており,水路内および水路沿いにヨシが繁茂している。排水路の水深は40cm程度で,水路長は1km程度であるが,このうち約300mの範囲に数百個体が確認された(図2)。

考察

河北潟地域におけるエサキアメンボの生息状況に関する調査は十分にはおこなわれていない。しかし,とくに干拓地の外側である河北潟沿岸部の農地については,1992年から実施された県営湛水防除事業において,農業水路の改修が全面的におこなわれていることから,エサキアメンボの生息の可能性はあまり高くないと考えられる。一方干拓地では,支線排水路の護岸工事が,干陸後の1973年から81年にかけておこなわれたが(北陸農政局,1985),その後,基本的には水路の構造の改変を伴う改修はおこなわれていない。そのため環境条件が安定しており,エサキアメンボの定着がみられたものと思われる。

河北潟干拓地は海拔下にあり,常に排水をおこなうことによって維持されている陸地である。そのため干拓地内には,計画的に排水のための排水路が網羅されている。排水路は圃場の間を通る支線排水路から始まり,それぞれの支線排水路は2つの幹線排水路に繋がり,最終的にポンプにより



図1. エサキアメンボの生息が確認された河北潟干拓地の支線排水路.



図2. 確認されたエサキアメンボ.

汲み上げられ干拓地の外へ排水される。したがって、陸地を維持する上で排水路の存在は不可欠であり、排水路の通水性が維持されていることが必要とされる。今回、エサキアメンボが確認された水路は、維持管理が滞っていたことから、土砂が堆積し流路が狭くなっていた。いずれ土砂が除去されるものと思われ、その場合、エサキアメンボの生息環境が消失する可能性がある。干拓地においてエサキアメンボの生息を保障するためには、排水路の土砂の除去を数年間に渡って段階的におこなう、ピオトープなど他の適当な生息場所を確保する、といった対策が必要となる。

謝辞

後日、西原昇吾氏にエサキアメンボの同定およ

び現地での生息状況を確認いただいた。ここに御礼申し上げます。

文献

- 北陸農政局 1985 国営河北潟干拓建設事業 完工記念誌「干拓の記」. 北陸農政局.
- 石川県野生生物保護対策調査会 2000 石川県の絶滅のおそれのある野生生物<動物編>いしかわレッドデータブック. 石川県環境安全部自然保護課.
- 西原昇吾・高橋久 2000 河北潟水域の現状と河北潟周辺の水生昆虫相. 月刊「水」. 2000年8月号:30-36.